

---

# 混色の羽

八重桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

混色の羽

### 【Zコード】

Z2973P

### 【作者名】

八重桜

### 【あらすじ】

神王ゼウスによって、魔王リリスが殺されてから10年以上が過ぎた。そして、今、亡き母、魔王リリスの仇を取るため、神王と魔王の両方の血を引き継いだ双子が復讐を行い始める！！！

恋愛＆復讐のファンタジー、始まります。

## プロローグ（前書き）

この小説は感想懇願小説です

## プロローグ

この世界には、神界、魔界、人間界の3つの界が存在している。

このなかでも魔界と神界は長い間戦争を続けてきた。

それに一時的に休止符を打つたのが、20年前の魔王リリス、神王ゼウスの政略結婚だった。

これによつて魔界と神界は友好的な関係になるかと思われた。

しかし、16年前、神王ゼウスは魔王リリスを裏切り、魔王リリスに致命傷を負わせ、彼自身は神界へと戻つた。

そう、この政略結婚は魔界と神界の友好的な関係を取り戻すためではなく、魔王リリスを討つための作戦だったのだ。

もちろん、魔王軍は神界へ報復を試みたが、魔王リリスが戦えない今、勝算はなかつた。

そして、魔王リリスは15年前、神王ゼウスとの子、ルシファーとベルゼバブを出産した時に、致命傷により体力が落ちていたため、2人を生んだ後他界した。

さて、なぜ神王ゼウスとの子が生まれたかといつと、ゼウスが欲情して魔王リリスと性行為を行つたからである。

つまり、魔王リリスは、作戦のために結婚させられ、神王ゼウスの欲望のままに犯され、最後には飽きられて殺されたのだ。

そして、10年前、「開門」という出来事により、神界、魔界、人間界の3つの世界が繋がった。

では、まず最初に3つの世界について説明しよう。

魔界とは名前の通り魔族の世界であり、魔王を頂点としてその下に大悪魔、その下に手下という構成により出来上がっている魔王軍というものが存在する。

また、魔族とはべつに魔獣というものが存在する。

神界とは、これまた名前の通り神族の世界であり、九天使や四大天

使を幹部、神王ゼウスを頂点とする神王軍といつものが存在する。

また、神族とは別に、妖精や精靈が存在する。

人間界とは、これまた名前の通り人間の世界である。

開門後は、魔族、神族、人間の3種族の壁を取り除くことを目標とし、3つの種族を対象とした学校、「ベルサニア学園」をはじめとし、3つの種族の友好化に力を入れている。

また、人間のほかにドラゴンが存在する。

この3つの世界は戦力的には魔界4、人間界2、神界7といつたところだ。

だが、これはあくまで10年前の戦力の比率だ。

つまり、物語本編の比率ではないことを覚えておいてほしい。

次に3つの種族について説明しよう。

魔族は3つの種族の中では最も魔力に優れている。

そのかわり、一般的には魔力以外を使うことはできない。

性格的には好戦的であるが、別に残酷というわけでもない。

神族は3つの中で最も神力に優れているが、こちらも魔族と同様、神力以外を使うことは一般的にできない。

性格的には穏やかで、あまり戦闘を好まない。

魔王リリスを討つておきながら、その後魔界に攻め込まなかつたことがそれを象徴しているだろう。

人間は他の2つの種族とは違い、神力と魔力の2つを使うことができるが、一般的には魔力、神力の最大値はそれぞれの種族と比べて劣っている。

性格的には友好的で、開門後に、3つの種族混合の学園を作ったこ

とがそれを象徴しているだらう。

また、3つの種族は外見は一般的にはそこまで変わらないが、一部の大天使、大悪魔が力を解放した時、解放したものの真の姿が現れる。

つまり、上位の神族と魔族は本来の姿は結構違つてゐるといふことだ。

最後に少しだけ魔力と神力について述べておこう。

魔力と神力を用いて行われる技を魔法と呼ぶ。

決して、魔力の場合だけではないので注意しておいてほしい。

魔法にはいくつかの属性があるのだが、それはいづれ話すことにしてよい。

ここで大事なのは、魔力と神力には得意、不得意があるということだ。

簡単に言つてしまつと、魔力は物理的な攻撃や幻影魔法に優れてしまつて、神力は回復や、特殊な攻撃に優れていふといふことだ。

ここで述べていなくて必要だと思われる」とは、あとがきなどに書いていきます。

これ以降は本編です

今日は4月6日、俺とベル、それと手下一人が、人間界にある3種族混合学園「ベルサニア学園」通うために魔界離れる日だ。

「おはよ〜」ぞこます、お兄様」

眠そうな顔をしながら起きてきたのは、俺の双子の妹、ベルゼバブ、略してベルだ。

「おはよう、ベル。

出発の準備はできたかい？」

「大丈夫です、お兄様。

それにしても人間界、楽しみですね」

「何回も言つが、遊びに行くわけではないんだぞ」

「わかつてます」

本当に分かつているのだろうか？

そのとき、扉が開いて、一人の女の子が入ってきた。

「おはようございます、ルシファー様、ベルさん」

そういえば、まだ名前を言ってなかつたな。

俺の名前はルシファー。前代魔王、リリスの息子である。

それで、今はいってきた女の子はアスター。年齢的には俺たちと同じ15歳（今年で16）にあたる。

また、今回俺たちの使用人として一緒に人間界に行くことになっている。

「おはよう、アスター。

君も用意はできたかい？」

「はい、問題ありません」

「どうか、それでは朝食をとつたら出発するといつ

「それでは、くれぐれもお気を付けください」

「大丈夫だ、俺を誰だと思っている?」

「そうですね、失礼いたしました」

俺の前にいるこの男は大悪魔ベリアル。魔界でも屈指の実力と強大な権力を持つ存在であり、俺の部下でもある。

また、俺とベルを率先して育ててくれたのもベリアルである。

「それで、例の作戦は予定通りでよろしいですか?」

「ああ、4月15日で問題ない。」

「その日、この世界に再び魔王が降臨する」

「わかりました。私たちも準備を進めておきます」

「それでは、俺が留守の間、魔界を任せたぞ、ベリアル」

「ルシファー様の仰せのままに」

こうして、俺たちは人間界へと旅立った。

そして、それはこれから起きる出来事の幕開けでもあった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2973p/>

---

混色の羽

2010年12月4日18時07分発行